

子宮頸がん予防ワクチン 公費助成早期実現を

公明党 さの 久美子

1. 平和教育について

戦後65年を迎え、被爆や戦争体験継承が喫緊の課題。平和への意識を拡げるため、メッセージリー・作文等、自らが行動をおこす教育が必要。平和とは、家や地域の中にもある。いじめもいけないと、そこまで発展させることが大事。教育長) 作文を書くのにも、平和の事前学習実践というプロセスを学校は大事にしていきたい。

2. 子宮頸がん予防ワクチン公費助成について
国の来年度の方針は助成実施区市町村にしか補助金はこない。公費助成への高い市民ニーズ。今までの研究・検討の結果、市の考えは。

市長) 国の動向を見極めながら、助成の開始時期、対象者、助成額等を検討してまいりたい。

3. 認知症対策について

今後、急増する認知症患者。早期発見、適切な医療提供のための市の対応は。市) 専門相談事業・認知症キャラバンメイト活動・認知症サポート医との懇談会・家族交流事業の推進がある。さの) 地域で見守るためには、正しい知識をもつことが重要。認知症サポーター講座の拡大を求める。こどもたちへ対象を拡げる考え方も大切。教育長) こどもが認知症サポーターになっていくことは大事。今後検討していきたい。

4. 安全・安心のまちづくりについて (1)防災訓練について、災害時の初動要員は担当の地域住民との連携・信頼を深めるために、地区の防災訓練に参加すべき。市内高齢者福祉施設の訓練状況の把握を。市) 職員が休日に参加できる体制を考える。調査する担当部署を検討する。

国分寺駅北口に 新規バス路線の開設を

新政クラブ 新海 栄一

問) 最近多摩地区の市において小中学校一貫教育を導入する自治体がふえているが現状は。教育長) 全国では100カ所以上、多摩では三鷹市、武蔵村山市他2市で実施または検討。

問) 小中一貫教育の効果と市としての見解は。教育長) 学力向上の視点からの小中連携や小中の教員同士の研究交流には力を入れている。一貫校については地域、校舎、カリキュラムなど諸問題があるので今後の研究課題としたい。

問) 国分寺街道東元町区間の整備予定は。都市計画担当部長) 都の第3次事業計画に位置づけられているので積極的に推進依頼をする。

問) ぶんバス本多ルート朝の増便を。都市建設部長) 朝7～9時の間、20分で回してほしいとの要望ですが、なかなか難しい。現在2時間で何回ということ検討している。

問) 国分寺駅北口の商業振興をはかる上から、小平方面からのバス路線の新設は可能か。都市建設部長) 今までもバス会社に依頼しているが、具体的には進んでいない。再度要望する。

問) 仕事の多様化と共に24時間対応の保育園ができていくとのこと。設置の現状と内容は。子ども福祉部長) 八王子市と新宿区にある。保護者の就労時間に合わせた体制が組まれている。要望) 早朝や夜間の保育も多い。検討願いたい。

問) 環境と経済を両立させた持続可能都市として国分寺市は全国641市区の中で16位にランク

された。市長の努力の結果と思うが感想は。市長) 一つの客観性のあるデータと思う。市の良さを生かしながらさらに市政を進めていく。

新たな視点で 市内に眠る文化財を発掘せよ

市民サイド 森 喜行

●指定文化財について…駅直近に高層アパートが集中する現状を指摘、市民が地元を知り、回遊ポイントを増やすことで愛着心を育み、併せて観光スポットとしての可能性も探るという観点から市指定文化財を今日的視点から増やすことを提案しました。昭和の事件史から三億円事件とイエスの方舟事件を取り上げ、その社会的意義から事件現場を現在23件ある文化財に加えられないか、本多地区の焼夷弾落下跡、北町のB29墜落場所、西恋ヶ窪や西町に現存する防空壕を戦争の記録として、まとめてモニュメント等で残せないか、映画「三丁目の夕日」に出てくる東恋ヶ窪の銭湯も検討すべきではないか、市の考えを質し、併せて御当主の高齢化で維持が危ぶまれる旧家の蔵等の調査・保全策を急ぐよう求めました。

●自転車と電動車椅子対策について…都市化が進む中、アパート等の駐輪場が需要に追いつかない現状を指摘、放置対策と資源・環境両面から自転車のシェアリングの可能性について質しました。また、近年事故も増えている電動車椅子が道路交通法上、歩行者扱いであることを指摘し、高齢化社会を見据え、道路等の改善策と運転講習会実施の必要性を訴えました。

●街路樹等の干ばつ対策について…記録的な猛暑に見舞われた今夏、ツツジ等低木の枯死が発生したので、散水の現状、マニュアルの有無を質し、散水用の費用が用意されていないことについて、地球環境の変化に対応して、渇水対策費を毎年予算として計上するよう求めました。

大切な家族や地域の絆が 希薄になっている？

新政クラブ 井沢 邦夫

I 市内高齢者の安否確認は完全にできたのか？(担当) 100歳以上は8/3現在で36名、9/3現在では45名であり、うち男性5名、最高年齢105歳女性。医療保険や介護保険の利用や面談により、全員の安否確認ができています。

II 前回の国勢調査では、市内の85歳以上単身者は426名、二人とも85歳以上の夫婦は63世帯となっているのか？災害弱者に対して、いざという時に実効性のある援護体制を構築して欲しい。(担当) ふれあい収集や配食サービス、民生委員76名による訪問や地域の見守りを行なっている。又災害時要援護者登録者制度への登録者は1,868名、緊急時は組織的対応を行なう。

III 「個人情報保護法」の過剰反応に対し、本来の法の趣旨と正しい取り扱いについて市民への周知が必要である。個人情報共有で「温かい地域の絆」による地域コミュニティ活性化ができるよう、名簿作り等に支援をお願いしたい。

IV 放置された空き地、空き家が増え、雑草・虫の発生や火災の心配など近隣の迷惑になっている。所有者に対し粘り強い督促と民間との提携など一歩踏み込んだ対応を検討すべきである。

V 今後福祉予算の増加や大型事業が市の財政を圧迫する。思い切った行財政改革が必要。3・4・6号線熊野神社通り整備への東京都の支援に対し、財政的な面から機を逸せず対応すべき。VI 増えつつある父子家庭にも、母子家庭と同等の支援を受けられる法的整備を国に要請すべき。VII 高齢者の就労支援、行革に高齢者パワー活用。

市長の「もう一回チャンスを」 発言は重い

市民サイド 釜我 健二

釜我= 6月議会での北口再開発事業についての私と市長のやりとりを市長は記憶しているか。市長= 定かではないが、十分市民の理解を得るようにとの指摘であったと記憶している。

釜我= 私は、「北口の計画変更は市長の言う7月中旬に庁内決定という短時間では無理だ。時間をかけて練り上げて本当に実行できる案を議会に示すべき」と強く求めたのだ。しかし市長はこれを一蹴した。その結果は私の指摘通り、議会の合意どころか与党の合意さえ得られていない。そしてまた今議会でも同じことを繰り返そうとしている。市長は権利者の前で「もう一回チャンスがほしい」と述べているが、私はこの発言は、市長がこの機会に再開発事業ができなかったら市長を辞する決意を表明し、背水の陣をしいたものと重く受け止める。この事業は中止はできない。山積する課題を乗り越えるべく、議会の心に響く市長の対応を強く求める。

会計管理者は職責にふさわしい処遇を

釜我= ペイオフが現実化した今日、会計管理者が課長職なのは責任の重さと均衡を欠くのでは。市長= 指摘されたことを含めて、確かに検討すべきこともある。庁内で慎重に検討を進めたい。釜我= 生ごみ堆肥化は他市でも急速に進んでいる。戸田市での障害者の働く場と協力市民への苗の提供を結合した事例は参考にすべきだ。

環境部長= 効果は大きいので研究して進めたい。釜我= 学校のグリーンカーテンの夏休みの枯葉化を学校・地域の協力で防ぐ工夫をすべきだ。教育部長= 来年に向けて地域の協力も求めたい。

児童・生徒の学習環境を守る 猛暑対策を急げ！

公明党 高橋 りょう子

1. 健康診断受診率

問) 乳幼児健診未受診者に児童虐待のリスクが高いといわれる。市の現状は。

(市) 未受診者約40～60名に再度案内を出すのが4割が無回答。個人情報上、対応が難しい。

(市長) 個人情報の壁はあるが命に関わる事。庁内の連携で子供を守る対策が必要と認識。

問) 以前、提案した健康手帳が完成と聞く。健診率向上の為、普及、啓発、使用法に工夫を。

(市) 議員の提案を入れ、健診案内送付の際、贈呈の旨を記載し受診率アップに努めたい。

2. 高齢者福祉

問) 高齢者の安否確認が社会問題に。乳酸菌飲料配布の機会を活かす自治体もあるが。

(市) 配食サービス、水道、電気等の業者に協力頂き、見守り等、支えあい事業を検討したい。

問) 高齢・多様化社会は、地域毎に問題・課題が異なる。地域福祉の考えが急務では。

次ページにつづく